

下野市立緑小学校

1 学校課題

共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成

～「対話」を軸とした学習を通して「聴いて考える力」を育成するための指導の工夫～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、これまで学校課題の主題を「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」とし、「学びの深まりを実感できる授業」を目指し、継続して研究に取り組んできた。

これまで、全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査、年度末に実施した学力調査で高い正答率を示す設問が多いことや、児童質問調査結果の分析から、児童一人一人の学習意欲の向上が確認できるなど、学力の向上に一定の成果が見られた。

また、令和5年度まで国語科で「話す・聞く」の単元を中心として「伝える力」の育成を図ってきたことから、多くの児童が積極的に自分の考えを伝える活動に取り組めるようになってきた。その反面、相手の話を「聴く力」が不十分なため、双方向での対話がうまく成立せず、対話をもとにした理解や思考の深まりが十分でないことが課題として残った。

そこで、今年度も、「対話」を軸とした国語科における主体的・対話的で深い学びのある授業の実現を目指すことは同様としつつ研究の主題を、双方向での対話の成立をもとに「聴いて考える力」の育成を目指していきたいと考えた。

(2) 研究の仮説

国語科の学習を中心に「伝え合う・聴き合う」双方向での「対話活動」の指導や、ねらいを明確にした単元計画の作成について研究を進め、意図的・計画的に言語活動を設定し、見通しをもった指導をすることは、児童の「聴いて考える力」を高めることにつながるであろう。

3 研究内容

(1) 「学級力」を高め、互いの思いや考えを伝え合ったり聴き合ったりすることで、「学び合える集団作り」を行う。

今年度も、全学級で「学級力アンケート」を年2回実施し、その結果を可視化したグラフを基に、学級の実態について話し合いを行った。学級の良いところを再確認し、更に伸ばしていくという肯定的な視点から話し合うことにより、その後の学級の長所を伸ばしていく取組につなげた。

(2) 国語科の授業研究・開発

双方向の「対話力」の基本は、「聴く力」の育成である。そこで、「対話」を成立させるための「聴く」技能を、国語科で育成するために次のことに取り組んだ。

①「深い対話」の手がかりになる発問の工夫や、児童に「聴くこと」の有益感を実感させる授業の展開、聴いた内容を受けて自分で考える（自分の考えのよさに気付く・友達のを考えをもとに、自分の考えを再構築する等）時間の確保。

②単元の学習計画を児童と確認しながら立てることにより、児童自身が単元のゴールを見据えながら見通しをもって毎時間の学習に主体的に取り組むことができるようにする。

(3) 「聴いて考える力」を鍛えるための常時活動

①学習課題に対して「自分の考えをもつ→伝え合う・聴き合う→自分の考えを深める」という学習スタイルを継続的に行うことにより、児童が「双方向」の話し合い活動に慣れることで、さらに理解や思考の深まりにつなげられるようにする。

②授業の導入での「めあて確認」と終末の「振り返り」の継続により、本時で分かったことや、新たな疑問への発展など、単元を貫く思考の深まりにつなげる。

(4) S & U コラボ事業及び、要請訪問に関わる授業研究を通した主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
7/3	一年生 (講師による師範授業)	「おむすびころりん」	【学習課題】 「おきにいりのばめんをそうぞうして、リズムおんどくげきをしよう。」 ①児童が「やってみたい!」という意欲がもてる学習課題を提示する。 ②学習活動の見通しをはっきり示す。(学習計画表、ゴールのイメージ 等) ③言語活動の充実。(リズム音読、問いの工夫やその答えの価値付け・共有)  単元の導入の際に、これからの学習活動について児童が興味や関心をもち、ゴールまでを見通せるようなしかけを意図的に行った。
9/30	三年生	「ちいちゃんのかげおくり」	【学習課題】 「ちいちゃんのかげおくり」で心に残る場面とその理由を、感想カードにまとめて伝えよう。 ①場面ごとではなく、叙述をもとに場面同士の結び付きを捉えながら物語全体を通して読み進める。 ②物語の叙述から捉えた理由をもとに、自分の考えと友達の考えを比べる。  物語を読んで一人一人がもった考えとその理由をもとに、共通点や相違点に着目しながら話し合いを進め、学習が深まるようにした。
11/18	六年生	筆者の考えを読み取り、自分の考えを伝え合い、「みんなの考えるブック」を作ろう	【学習課題】 自分にとっての「考えるとは」につなげるために、友達と意見を伝え合いながら自分の考えを広げよう。 ①学習計画を児童と確認しながら作り、毎時間の学習活動と単元のゴールとのつながりを見通しながら学習を進める。 ②対話活動の目的や必要性を認識させることで、有益感をもち、より主体的で効果的な学習活動につなげる。  話し合い活動では、テーマや内容をもとに対話の相手を選ぶことで、有意義で効果的な活動になるようにした。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①双方向を意識した対話活動の実践により、児童同士で伝え合ったり、聴き合ったりすることで、学習課題について自分なりの理解や思考を深めることができるようになってきた。
- ②効果的な単元計画の作成や、双方向の「対話」が深まるような手立てを工夫することにより、児童が学習の見通しをもちながら、より主体的に取り組む姿が見られるようになった。

(2) 研究の課題

双方向による効果的な対話活動を行うようになってきたが、それをもとに児童一人一人の「考える力」の向上や定着には十分に至らなかった。対話活動の後に自分自身の考えを再構築する時間を確保することや、「聴いて」得たことを、どのように理解や思考(「考える力」)の深まりにつなげていくかが課題であり、その指導法や実践についてさらに研究を深めていきたい。